

ふれあいニュースレター

【政府原子力被災者生活支援チームからのお知らせ】

今号の

ほっと・ニュース

「檜葉ならでは祭」が開催されました

3月21日、檜葉町の檜葉中学校・ここなら商店街にて「檜葉ならでは祭」が開催され、町内外から訪れた2,500人でにぎわいました。

同窓生が久しぶりの再会を母校で喜び合い、懐かしい檜葉の味覚や伝統芸能を楽しんだほか、復興への想いを託しバルーンを大空に放ちました。



ふたば未来学園高校が開校しました

4月8日、福島県立ふたば未来学園高等学校の開校式と入学式が広野町で行われました。

県外の避難先を含む各地から集まった一期生152人は多くの関係者から祝福を受け、新たな一歩を踏み出しました。

広野町出身の新入生代表は「故郷を復興させる、という想いを実現するためにも、未来についてしっかりしたビジョンを持ちたい。十年後も、百年後も誇れる伝統や校風を築き上げる」と決意を述べました。

ふたば未来学園は、全国に先駆けて、現実社会の中で実践力を育成するカリキュラムを取り入れ、生徒たちは復興の課題についての研究や海外留学に取り組みます。



■暮らし関連2
避難指示解除から1年～
人々の暮らしが戻ってきました～

■暮らし関連3



「まずは、地域の保健センターや近くの誰かに話してみてください」

■NEWS等4

・南相馬市・旧特定避難勧奨地点での取組について
・常磐自動車道全線開通から1ヶ月



詳しくは、ふたば未来学園のフェイスブックをご覧ください。
<https://www.facebook.com/futabamirai>



暮らし関連情報

避難指示解除から1年 ～人々の暮らしが戻って来ました～ (田村市都路地区)

田村市の都路地区では、避難指示が解除されてから4月1日ちょうど1年が経ちました。昨年の春には学校や商業施設が再開され、また、夏から秋にかけてはイベントも多数行われ、人々の暮らしと歓声が戻って来ました。この間、交通の利便性や通信環境も改善し、帰還した住民からは「生活しやすくなってうれしい」、「日常が戻りつつある」などの声が聞かれました。



小中学校等の
本校舎での再開 (26年4月)



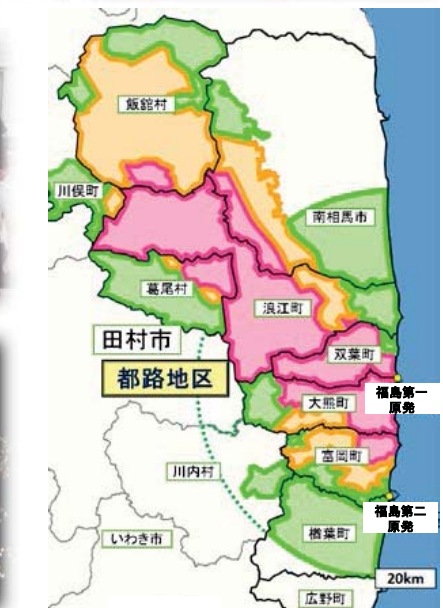
仮設商業施設の開店 (4月)



都路グリーンパーク杯争奪
スポーツ少年団
ソフトボール大会 (7月)



行政区対抗ソフトボール
大会 (7月)



都路灯まつり (8月)



魚つかみ大会 (8月)



そばの実の
収穫 (10月)



元気な都路町民交流会 (11月)



麦踏み (12月)



成人式 (27年1月)



24時間営業コンビニの
開店 (1月)



「まずは、地域の保健センターや近くの誰かに話してみてください」

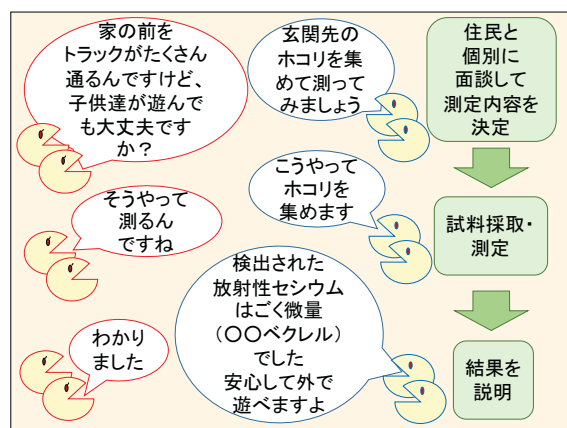
普段は、大学の放射線取扱施設で、施設の管理と実験に初めて携わる学生への教育を担当しています。震災の年の6月に南相馬市で社会福祉の活動をしている知人からの依頼を受け、測定器を持って一緒に住民の方々を訪問して不安の声に応える活動を始めました。

現場では、まず住民の方から不安に思っていることをお聞きして測定内容を決めた後、試料の採取と測定をし、結果を説明します。

これまではご高齢の方が主でしたが、最近になってようやく、若いお母さん方にも保健師さんを介して接触できるようになりました。

忙しさ、周囲への遠慮や疑心暗鬼などから、講演会や相談会に来ない方々も多く、このような方々に働きかける仕組みや、話しやすい雰囲気を作ることが重要です。

例えば、南相馬市では水道水の放射性物質は平成23年の夏から検出されていないことはホームページにも載っていますが、「自分の家ではどうなのか」を知りたい方もいらっしやいます。このため、作業はその方が見ているところで行っています。



活動の流れ(実例に基づく)



話しやすい雰囲気を周囲が作ることも大事です。

国立大学法人東京工業大学
放射線総合センター
助教 富田 悟 さん



空間線量とホコリの放射性物質を測っています

口に出せない不安をお持ちの方々はまだまだたくさんいらっしゃると思っています。まずは、地域の保健センター、相談員や近くの誰かに話してみてください。

時々他大学の人も一緒に活動しており、今後は仲間がさらに増えることを願っています。



東京工業大学放射線総合センター
横浜市緑区長津田町4259-B-67
連絡先: 045-924-5896

南相馬市・旧特定避難勧奨地点での 取組について

南相馬市の旧特定避難勧奨地点では、住民の方々の放射線への不安に対応するため、相談窓口の設置、住宅敷地内のきめ細やかな線量測定、清掃作業の実施、国の職員による個別世帯への訪問・説明などを実施してきています。

清掃を実施した住民の方々からは、「清掃してもらってよかった。自分自身は自宅に戻っていた方だが、普段戻っていない人にとっては家屋維持の面ではよいのではないか。」「自分ではなかなかできないので、清掃してもらい助かった。清掃した側溝付近の線量も少しだが下がった」、「細かい落ち葉まで片付けてもらい、とてもきれいになった。今月末に避難先から家に戻れることになって、心が晴れて前向きになった。」などといった声が寄せられています。

昨年11月の清掃開始から本年3月11日までの間に、36件の住宅で清掃を実施済みであり、現在も受付を継続しています。

今後も住民の皆様の暮らしのため、県や南相馬市とも協力して、復興の本格化に取り組んでいきます。



清掃活動の様子



清掃前



清掃後

常磐自動車道全線開通から1ヶ月

3月1日の常磐自動車道全線開通から、4月1日で1ヶ月が経ちました。事業者の方からは、出入口の渋滞などを理由に、利用に慎重な声もありましたが、「早く運べるようになった」（運送業）、「取引先や関連事業所との行き来の時間が大幅に短くなった」「運転が楽になった」（製造業等）などといった声が聞かれました。また、離れた家族との行き来などにも「便利になった」との声がありました。



「ふれあいニュースレター」バックナンバーのご案内

過去の「ふれあいニュースレター」につきましては、以下のアドレスよりご覧いただくことが可能です。ぜひご覧ください。
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu.html>